

知床半島の河川から得られたエゾハナカジカ およびミミズハゼ

中野 繁¹・下田和孝²・北野 聡³・井上幹生⁴

1. 〒098-25 中川郡音威子府村 北海道大学農学部附属中川地方演習林
2. 〒060 札幌市北区北10条西5丁目 北海道大学環境科学研究科環境基礎学講座
3. 〒060 札幌市北区北9条西9丁目 北海道大学農学部応用動物学講座
4. 〒060 札幌市北区北9条西9丁目 北海道大学農学部砂防工学講座

知床半島の諸河川における魚類相は、小宮山(1981)および小宮山、高橋(1988)などによって報告されているが、主にその調査方法上の問題点などから特に小型の底生魚についての情報は十分でなく、より精細な再調査が必要とされていた。今回、著者らは、知床半島の数河川においてエレクトリックフィッシャー等の漁具を用いた精細な採捕調査を行い、半島部では未記録の2魚種、エゾハナカジカ *Cottus amblystomopsis* とミミズハゼ *Luciogobius guttatus* を採集したので以下に報告する。

採集地および標本の記載

エゾハナカジカは、知床半島の中央部を北流しオホーツク海に注ぐ流程約11km、河口付近の川幅約6mの小河川である金山川で3個体採捕された(Fig.1)。当河川は全流程が旧勾配で、典型的な山地溪流の河川形態(Aa型)(可児, 1944)を示す。本種標本は、いずれの個体も河口から200mほどの区間の礫底の瀬で採捕された。なお、当河川の採捕区間では本種と同属のカンキョウカジカ *C. hangiongensis* が多数採捕された。

今回得られた本種標本の各計測部位の標準体長もしくは頭長比および計数形質をTable1に示した。各計測部位の相対長および計数形質はいずれも、Goto(1980)の報告とよく一致した。本種は胸鰭軟条数が若干多いことおよび尾柄がより細かいことなどの特徴で、同属の近縁種であるハナカジカ *C. nozawae* と区別されるが、今回得られた標

本はハナカジカのものとは明らかに異なる細い尾柄を持っており、エゾハナカジカと同定された。

エゾハナカジカは、従来ハナカジカ小卵型とされていたものを、Goto(1980)が分類学的再検討を行いサハリン産 *C. amblystomopsis* と同一種と認め、新和名を与えた魚種である。本種は、北海道の太平洋およびオホーツク海側の河川に広く分布

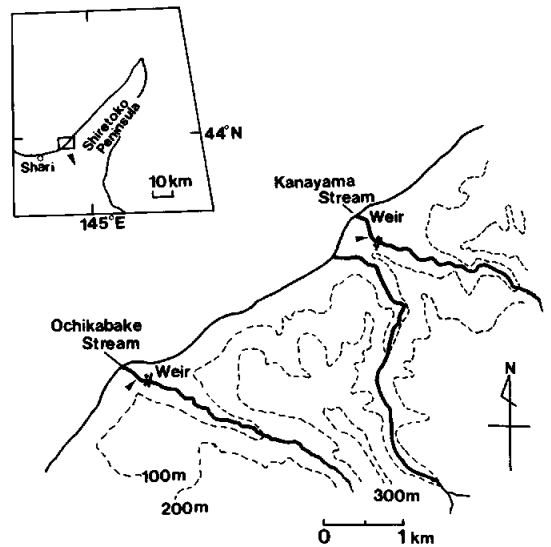


図1 知床半島の金山川およびオチカバケ川におけるハナカジカとミミズハゼの採集地点。

Fig. 1 Map of the Kanayama and the Ochikabake Streams in the Shiretoko Peninsula showing the sites (arrows) where *Cottus amblystomopsis* and *Luciogobius guttatus* were captured.

表1 金山川で採集されたエゾハナカジカおよびオチカバケ川で採集されたミミズハゼ標本の各計測部位の標準体長もしくは頭長比と計数形質。

Table 1 Proportional measurements and counts of the present specimens of *Cottus amblystomopsis* and *Luciogobius guttatus* from the Kanayama and the Ochikabake Streams, respectively

	<i>Cottus amblystomopsis</i>	<i>Luciogobius guttatus</i>
Number of specimens (Proportional measurements)	3	1
Total length (mm)	92.9~176.4	73.0
Standard length (mm)	77.5~150.4	64.2
In % of standard length:		
Head length	31.6~ 35.7	21.3
Body depth	21.2~ 25.0	11.8
In % of head length:		
Eye diameter	15.1~ 16.6	12.8
Jaw width	65.1~ 72.7	46.7
Caudal peduncle depth	20.4~ 24.7	39.9
(Counts)		
Dorsal	VIII~IX, 17~19	I, 11
Anal	15~16	I, 11
Pectoral	15~16	17
Pelvic	I, 4	I, 5
Preopercular spines	3	—
Filamentous rays of pectoral	—	1



写真1 金山川で採集されたエゾハナカジカ
(標準体長95.5mm)。

Plate 1 *Cottus amblystomopsis*, 95.5mm SL, from the Kanatama Stream.



写真2 オチカバケ川で採集されたミミズハゼ
(標準体長64.2mm)。

Plate 2 *Luciogobius guttatus*, 64.2mm SL, from the Ochikabake stream.

し、知床半島基部のヤンベツ川、伊茶仁川 (Goto, 1980) および斜里川、オクシベツ川 (小宮山・高橋, 1988) などにも生息することが知られていたが半島部の河川からは報告されていなかった。よって、本報告は知床半島の河川からの初記録である。

ミミズハゼは、金山川より約3 km半島基部よりのオチカバケ川の河口付近で1個体のみ採捕された (Fig.1)。当河川は流程約8 km、河口部付近での川幅が約4 mの小河川であり、前述の金山川と同様全流程が山地溪流の河川形態を示す。

本種標本の各計測部位の標準体長もしくは頭長比、計数形質およびその他の形態的諸特徴をTable1に示した。各計測部位の相対長および計数形質はいずれもArai (1970)、Shiogaki and Dotsu (1976) および明仁 (1984) らの報告とよく一致した。本種は胸鰭上部に1本の遊離鰭条を持つこと等で同属の他の近縁種と区別されるが、今回得られた標本は、このような本種の特徴をよく示していた。北海道内における本種の生息水域としては、渡島半島や奥尻島の数河川(後藤ら、1978;後藤ら、1982)や日高地方の沿岸(新井・阿部、1973)などが知られていたが、知床半島の河川からは報告されていなかった。今回、知床半島の諸河川において行った一連の調査では、他の複数の河川の河口部において本種の生息が観察された。本種は知床半島の沿岸域および河川下流部に広く分布するものと思われる。

謝 辞

北海道大学環境科学研究科の小野有五教授は私達に調査の機会を与えて下さった。知床自然センターの山中正実氏には、野外調査の便宜を図って頂いた。また、宮内庁侍従職の岩田明久氏には、文献の入手において便宜を図って頂いた。ここに記して感謝の意を表す。なお、本研究の一部は環境庁による平成3年度国立公園管理方針検討調査(知床国立公園における河川流域環境保全対策検討調査)費によって行われた。

引用文献

- 明仁親王 1984. ミミズハゼ、「日本産魚類大図鑑」(益田一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫), p.269, 東海大学出版会, 東京.
- Arai, R. 1970. *Luciogobius grandis*, a new goby from Japan and Korea. Bull. Nat. Sci. Mus. Tokyo, 13(2): 199-206.
- 新井良一・阿部宗明 1973, 日高沿岸の海産魚類. 国立科博専報, 6: 207-216.
- Goto, A. 1980. Geographic distribution and variations of two types of *Cottus nozawae* in Hokkaido, and morphological characteristics of *C. amblystomopsis* from Sakhalin. Japan. J. Ichthyol., 27(2): 97-105.
- 後藤 晃・中西照幸・宇藤 均・濱田啓吉 1978.

北海道南部の河川の魚類相についての子察的研究. 北大水産彙報. 29(2): 118-130.

後藤 晃・小野里担・酒井治己・高田啓介・山羽悦朗1982, 北海道奥尻島の淡水魚とその起源. 展示基礎資料研究報告(奥尻町郷土資料館設立準備委員会編) No1, 19pp.

小宮山英重1981, 知床半島の河川の淡水魚相とその特徴. 「知床半島自然生態系総合調査報告書(動物編)」, p.4-19, 北海道.

小宮山英重・高橋剛一郎 1988. 河川の魚類. 「知床の動物」(大泰司紀之・中川元編), p.15-57, 北大図書刊行会, 札幌.

Shiogaki, M. and Y. Dotsu 1976. Two new species of the genus *Lucio gobius* (Family Gobiidae) from Japan. Japan. J. Ichthyol., 23(3): 125-129.

本報告に用いた標本(エゾハナカジカ3個体, ミミズハゼ1個体)は知床博物館(北海道斜里郡斜里町)に保存される(標本受け入れ番号 No1606-1609).

Records of the river sculpin, *Cottus amblystomopsis*, and the flathead goby, *Luciogobius guttatus*, from the Shiretoko Peninsula, Hokkaido.

Shigeru Nakano¹, Kazutaka Shimoda², Satoshi Kitano³ and Mikio Inoue⁴

1. Nakagawa Experimental Forest, Faculty of Agriculture Hokkaido University, Otoineppu, Hokkaido 098-25, Japan.
2. Laboratory of Fundamental Research, the Graduate School of Environmental Science, Hokkaido University, Sapporo, 060 Hokkaido, Japan.
3. Laboratory of Applied Zoology, Faculty of Agriculture, Hokkaido University, Sapporo, 060 Hokkaido, Japan
4. Laboratory of Erosion Control Engineering, Faculty of Agriculture, Hokkaido University, Sapporo, 060 Hokkaido, Japan.

Abstract

Specimens of the river sculpin, *Cottus amblystomopsis*, and the flathead goby, *Luciogobius guttatus*, were collected from streams in the Shiretoko Peninsula, Hokkaido. These two species have been recorded from some rivers in Hokkaido, but never in the Shiretoko peninsula. The present specimens are deposited in the Shiretoko Museum.